

《症例報告》

## 前立腺癌へのホルモン療法と放射線治療後に出現した 仙骨不全骨折

$^{99m}\text{Tc}$ -MDP 骨シンチグラフィが診断に有効であった 1 例

横川 徳造\*    白井 辰夫\*    尾形 均\*    古井 滋\*

要旨 前立腺癌へのホルモン療法と放射線治療後に仙骨転移として放射線治療が依頼され、骨シンチグラフィを契機に仙骨不全骨折の診断となった 1 例を報告した。78 歳男性、前立腺癌にて LH-RH アゴニストによるホルモン療法と全骨盤を含めた根治的照射を受けた。照射開始 9 ヶ月後より臀部痛を訴え MRI にて仙骨転移と診断され、再度、疼痛対策に照射が依頼された。しかしながら骨シンチグラフィにて、変形したバタフライ型の集積を呈し仙骨不全骨折が疑われたため、CT 検査の追加と MRI の再確認が行われ、骨転移は否定された。以後、鎮痛剤にて経過観察を行ったが、5 ヶ月経過後、新たな骨転移の出現や腫瘍マーカー PSA の上昇はなく、仙骨不全骨折の最終診断と考えられた。不必要な治療を避けるためにも、仙骨不全骨折の骨シンチグラフィ所見は知っておくべきと考える。

(核医学 42: 403-407, 2005)